

第8回 廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成26年4月7日(月) 8:00~11:30

場所:グランパルティいわき(福島県いわき市)

2. メンバー

政府: (議長): 赤羽原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)
原子力災害現地対策本部: 熊谷副本部長
復興庁: 関参事官(福島復興局)
文部科学省: 西田放射性廃棄物企画室長
農林水産省: 中津水産庁研究指導課長
国土交通省: 安井河川環境課課長補佐
環境省: 宮崎水環境課長
廃炉・汚染水対策チーム: 糟谷事務局長補佐、吉田事務局長補佐、
上田対策官、豊口企画官、三木アドバイザー
廃炉・汚染水対策現地事務所: 野田所長、木野参事官、遠藤調整官、
有賀対策官、岡山対策官、小野対策官
東京電力: 石崎福島復興本社代表、増田廃炉推進カンパニープレジデント、
有馬バイスプレジデント、岩城福島第一原子力発電所副所長
福島県(オブザーバー): 玉根生活環境部次長
規制当局(原子力規制庁): 山本審議官、小坂地域統括管理官

3. 結果概要

(1) 赤羽副大臣御挨拶

○4月1日付けで、東京電力に福島第一廃炉推進カンパニーが設置され、本日より増田プレジデントにご出席いただいている。新たな体制の下に、我々も心を一つにして、廃炉・汚染水対策に取り組んでいきたい。

○先月28日に、福島第一原発構内で死亡事故が発生した点は大変遺憾。この場を借りてご遺族にお悔やみ申し上げます。現在、警察による検証中ではあるが、同様の事故が再発しないよう、原因究明を徹底的に行い、再発防止策を講じていただきたい。

- 汚染水対策について、ALPS は昨年6月に溶接部等の腐食が原因で運転停止のトラブルがあり、この点は現場の努力で克服したところだが、先月上旬よりフィルターの不具合が発生し、3系統中2系統が点検・調査のために停止している。汚染水対策の中で、ALPS は非常に重要な機能を担っており、早急な対応が必要。本件についても、本日の会議で報告いただき、十分な議論をお願いしたい。
- タンクの増設、HTI 建屋のトレンチの止水等については、進展していると聞いており、その点も本日議論をしたい。
- 現地調整会議において、これまでタンクのリプレースについて議論してきたが、その結果不要となったタンクが廃棄物となる。タンク以外のものも含め、福島第一原発構内の大量の廃棄物を今後どのように区分・保管していくかは大きな課題。中長期的な作業の中で、どのように対応していくかという点も報告いただき、議論をしていただきたい。
- 4月1日に田村市の都路地区で初めての避難指示の解除が行われ、本日から小学校、中学校の入学式が行われるところ。いよいよ復興の加速が始まったというのを実感するところだが、ふるさと帰還の大前提が、福島第一原発の廃炉・汚染水対策であり、大きな使命を我々は担っているということを改めて認識し、徹底的な議論をしていただきたい。

(2)緊急対策等の進捗状況報告

- 東京電力から、汚染水に関わる現場進捗状況として、2・3号機海水配管トレンチの浄化・止水と護岸エリア対策の状況、港湾内・外および地下水の分析結果、多核種除去設備の試験状況等について説明。また、福島第一廃炉推進カンパニー体制及びH6エリアタンク天板部からの漏えいに対する対策の進捗状況についても説明が行われた。
- 上記説明を受け、主に以下のような議論が行われた。
 - ・4月4日の豪雨による海水中のセシウム濃度の上昇については、原因究明と対策をしっかりと行うべき。もう少し詳細な説明をしていただきたい。
 - ・港湾への影響を考えると、排水路の流末部の付け替えを早急に実施すべきではないか。
 - ・C 排水路のあたりに一時期伐採木や、舗装されていない土壌のままの部分があったが、対処はされているのか。豪雨の際に、急斜面で港湾まで雨が流れる可能性もあるため、確認をいただきたい。
 - ・廃炉カンパニーの設立により、意思決定の迅速化等メリットはあると思うが、一方で独立した組織となることのデメリットが出ることはないようお願いしたい。カンパニーは独立性の高い組織であるが、福島第一の抱えている課題について、東京電力が全社的にしっかりと対応する仕組みをつくっていただきたい。
 - ・廃炉カンパニーにおけるプロジェクト制の推進は非常に良いが、プロジェクトマネージャーに

権限と情報を集約することが重要である。プロジェクトマネージャーが意思決定できる範囲や、内容に応じてどこにどのように相談するかを明確にすべき。

- ・早急に使いやすい様式を作成・共有し、しっかりと報告・情報共有できる体制を構築すべき。その際、全体工程の中でどこまで進展しているのか、発生した事象が工程にどの程度影響を与えるのかがわかるような資料作りをしていただきたい。
- ・2号機の海水配管トレンチの止水について、パッカーによって完全に止水できるかどうかは温度計によって間接的にしか確認ができないが、パッカーの上側にもう一つ穴を開け、カメラによる止水状況の目視を行うことなどを検討してはどうか。
- ・護岸エリアについて、No.2-7 の観測データが No.2-6 に近づいてきている点について、対応を検討すべきではないか。
- ・H6タンクエリアについて、G2のポイントで G1よりも高い値が見られる。より下流にウェルポイントを設置することを検討すべきではないか。
- ・ALPS については、予備品をしっかりと用意いただくとともに、作業員の被ばくを減らすため、取り替えが容易なように現場の状況を整えていただきたい。
- ・セキュリティの高いエリアで作業員がどのように働いているかを把握すべきではないか。
- ・H6タンクエリアの漏えいについて、最終的な原因究明を報告すべき。また前回の現地調整会議において、東電社員がしっかりと現場に出て状況を把握すべきであるという結論があったが、精神論ではなく、具体的なオペレーションとして責任者が現場に行くという体制をつくり、明示いただきたい。

(3) 現地調整会議で提示された課題への対応の検討

○東京電力から、4分野(タンク対策、循環ライン信頼性向上対策、自然災害対策、漏えい防止対策)について、対応方針、対応に当たったの検討課題、スケジュール等について説明があり、議論が行われた。主なコメントは以下のとおり。

- ・タンク堰の二重化についてはスケジュールが5月に遅れたが、6月に入ると雨も多くなるため、遅れることのないようスケジュール管理をしっかりと行っていただきたい。先般、堰からの溢水が発生したが、雨水の移送設備の増強は行われているか。タンクの底板補修についても、スケジュールを示していただきたい。
- ・タンクの増設計画の規制庁への半期報告については、4つのケースについて報告がされているが、前提としてより厳しいケースを記載すべき。HTI 建屋止水による流入抑制効果についても十分な評価をすべき。
- ・どのフランジタンクを優先的に水抜きして解体するかという考え方、計画を共有いただきたい。

- ・堰のかさ上げは、排水方法を含め追加で検討いただきたい。
- ・HTI 建屋の止水による地下水流入抑制効果の評価は非常に重要。HTI 建屋は1～4号機の汚染水をサリーに移送するまでのバッファとして使用しているが、止水の効果が出てきたのであれば、バッファとしての使用をやめ、1～4号機から直接サリーに移送することを検討いただきたい。

(4) 固体廃棄物保管に関する中長期計画(案)について

○東京電力から、福島第一原発の固体廃棄物保管に関する中長期計画(案)について説明が行われた。主なコメントは以下のとおり。

- ・覆土式の一次保管施設は、もう少し短期間でしっかりとした保管施設に移行できないか。自治体からは覆土式に対する不安の声も聞かれるので、できる限り早急に健全性が確認できる保管施設に移行していただきたい。
- ・今回は中長期の廃棄物保管の説明だったが、当面の短期の計画も具体化していただく必要がある。廃棄物の固体庫での管理や減容化は、放射線管理の面でも意味がある。

(6) 次回以降の日程

○次回は5月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。